保護者意見書

私は、被害生徒である[redacted]の[redacted]です。

この度、いじめ重大事態調査報告書が作成されたことについて、保護者として意見書を述べます。

まず、本件において学校が金銭要求、LINEを利用した脅し、暴力行為及び威圧的言動についていじめと認定し重大事態として調査を実施したことについては受け止めています。

しかしながら、本件において最も重要な事実は、いじめが認定されたそのものでなく、その結果として私の[redacted]が一年以上にわたり学校へ通うことが出来なくなったことです。

[redacted]は現在中学3年生ですが、中学1年生後半から続いたいじめの影響により長期間の不登校となりました。幸いにも、この1年以上を安全な家庭環境の中で過ごすことが出来た為、精神的には大きく回復し、本年4月からは学習塾へ通うことが出来るまでになりました。

しかし、現在でも学校の話題になると強い抵抗感を示しており、学校に通学出来る状態には至っていません。[redacted]の中では、金銭的被害も精神的被害も解決しておらず、本件は未だ終わった出来事ではありません。

一方で、加害生徒は通常の学校生活を継続しており、被害生徒である[redacted]のみが教育を受ける機会や学校生活を失った状態が続いています。この状況は、被害者救済という観点から極めて不均衡であると考えています。

また、本件では個々の出来事だけでなく、金銭要求、LINEを利用した脅し、暴力行為及び「笑ったら殺す」といった威圧的言動が積み重なった結果として、[redacted]が強い恐怖心と精神的苦痛を受け、長期不登校に至ったことを重く受け止めて頂きたいと思います。

私は本調査報告書の作成をもって本件が過去の出来事として処理されることを望みません。

教育委員会及び学校に対して、今後も継続して以下の点に取り組んで頂くことを強く要望します。

1、被害生徒に対する継続的な支援を行うこと。
2、高校進学及び将来に向けた学習支援を継続すること。
3、心理的ケア及び相談支援を継続すること。
4、被害生徒が安心して社会参加が出来る様、支援すること。
5、加害生徒に対し、本行為の重大性を理解させる為の教育的指導を継続すること。
6、同様の事案を再び発生させない為の再発防止策を継続的に実施すること。

[redacted]は今もなお本件の影響の中にいます。被害生徒の回復はまだ途上であり、本件は決して終わっていません。

また、本件によって失われた時間、学習機会、学校生活、人間関係は後になっても完全に取り戻すことは出来ません。

被害生徒が受けた影響の重大さを真摯に受け止め、教育委員会及び学校には、調査報告書の作成をもって本件を終了とするのではなく、被害生徒の回復と将来の為に、継続的かつ責任ある支援を行って頂くことを強く求めます。

令和8年6月

[redacted]保護者
[redacted]

被害生徒は今も本件の結果を背負い続けています。どうか、この重大事態を過去の出来事として終わらせないでください